

「ふるさとを愛し 未来をひらく
心豊かな磐田市民」

～ これからのいわたの教育について ～

令和8年4月向陽学府
一体校開校！！

磐田市教育大綱

～磐田駅前の大樟のように、
磐田の大地に深く広く根を張ってほしい～



詳しくはこちら

○「磐田市教育大綱の『培う』に込められた願い」

昭和の時代の教育者、東井義雄先生の著書に「培其根」があります。その著書の中に、「根を養えば、樹は自ら育つ。根の深さと広がり、樹の高さと広がりになる」など、先生の教育に対する思いや願いが綴られています。

磐田市教育大綱は、全て「～を培う」と表現されており、この「培其根」の理念が込められています。この6つの項目には順序性があり、一人の人間としての絶対的価値である「いのち」がまずあり、その一人の人間が前進し成長していくためには「誇り」（自尊感情）を培う必要がある。さらに、「人と人とのつながり」の中で、「礼節」「敬愛」「感謝」を培い、最後には、自分の夢や希望に向かうというだけではなく、世のため人のために尽くすことが最高の幸せであるという意味で「こころざし」をおき、そんな思いに向かって生きる人間を育成していきたいという願いが込められています。



磐田市教育大綱

いのちを培う
誇りを培う
礼節を培う
敬愛を培う
感謝を培う
こころざしを培う

○善導寺の大樟（静岡県指定文化財）

磐田駅前に生える樟は、目通り周囲約9m、樹高約18mを測る大樹です。この場所には、かつて善導寺があり、墓所の目印として植えられたものだといわれています。中泉駅開設以来、駅前の賑わいを見守りつづけてきた木です。昭和34年に県の天然記念物に指定されています。

これからの教育の方向性 ～教育の大きな転換点として～

今そしてこれからの時代は、人口減少や少子高齢化、DX（デジタルトランスフォーメーション）、気球環境問題等の進行により、先行きが不透明で将来の予想が困難な時代であると言われていています。いわゆる「正解がない時代」の中を、しなやかにたくましく生き抜いていくためには、子どもたちに求められる「チカラ」も変わってきています。

これまで 今・これから

〈工業化社会〉
大量生産・大量消費
経済成長 人口増

同質性・均質性
一斉授業中心

みんな一緒に、みんな同じペースで、みんな同じことを

測りやすい力重視

限られた時間で自らの記憶や思考だけを頼りに素早く正確に説く力を評価

〈DX時代 Society5.0〉
新しい価値創造、イノベーション創出
AI DX 多様性 多様な幸せ

多様性を重視した教育・人材育成
最適な学び 協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを 対話を通じた「納得解」形成

探究力重視

自ら学びを調整し、社会に生きる学びや試行錯誤しながら、自ら課題を設定し課題に立ち向かう「探究力」を評価

子どもの主体性

大人の成功体験や経験にとらわれず、子どもの好奇心や個人の興味関心に応じた学びや進路選択の実現

内閣府総合科学技術・イノベーション会議「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」より

社会の変化に対応した教育の在り方について

いわたの教育 1

1 子どもの可能性、「育つ力」を信じる教育
～一人一人を伸ばす教育～

いわたの教育 2

2 一人ひとりの違いを認め合い、多様性を尊重し合う教育
～自分は一人の人間として大切にされているという自己存在感を感受できる教育～

いわたの教育 3

3 人と人とのつながりを大切にした教育

いわたの教育 4

4 新時代の新たな学校づくり

いわたの教育

子どもの可能性、育つ力を信じる教育 ～一人一人を伸ばす教育～

教育の原点は、「人間の可能性、『育つ力』を信じる」ことだと考えています。こんな自分になりたい、もっと知りたい、分かるようになりたい、できるようになりたいなどといった自ら育とうという力、成長しようとする力を信じ、例えば、自ら学ぶ、自ら考える、お互いに自分の考えを伝えあう、多様な考えを認め合う、対話や話し合いから新たな考えを導き出す、様々な挑戦ができる、失敗や試行錯誤から学ぶ等々といった学びの場を提供することで、一人一人の学びが深まっていくものと考えます。

主な取組み

- 探究的な学び
- 幼保小の連続した教育
- 個別最適な学び（GIGAスクール）
- 英会話（SPEAKプロジェクト）
- ホンモノ体験（ラボ、ジュビロ・レヴズ等）



詳しくはこちら

探究的な学び

探究的な学び

生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことです。探究的な学びでは、生徒の思考力や判断力、表現力などの育成を目的としています。

幼保小連携

遊びは学び、学びは遊び、
「やってみたい」が学びの芽

幼稚園、保育園、こども園で学びを通しての学びから培った
こどもたちの「やってみたい」を小学校教育につなげます。

G I G A スクール

一人一台端末を活用した個別最適な学びの推進

本市では、通信手段としてLTE回線を採用し、校内はもちろんのこと校外や
家庭での学習にも対応できる学びの環境を整えています。パソコンやタブレッ
トを校外での探求的な学びや家庭での主体的な学びに積極的に活用しています。



詳しくはこちら



詳しくはこちら

英語教育

英語を使ったコミュニケーション能力の育成

小学校の1年生から動画を使った学びやALTとのコミュニケーション活動を取り入れ英語に親しんでいます。小学校6年生・中学校3年生全員が、4～5人のグループになって1つのテーマについて英語でスピーチした後、ALTも交えて英語で質問したり意見を伝えたりしてコミュニケーションを図る活動を市内すべての小中学校で実施し、英会話の活用を促進しています。



詳しくはこちら

ホンモノ体験

サッカー・ラグビー一斉観戦事業

小学校5・6年生がサッカー、中学2年生がラグビーをスタジアムで一斉に観戦することにより、磐田市を“ふるさと”として誇りに想う気持ちを共有し、将来にわたって磐田市を愛する気持ちを育みます。「スポーツのまち」ならではの取組です。



詳しくはこちら

いわたの教育

一人ひとりの違いを認め合い、多様性を尊重し合う教育
～自分は一人の人間として大切にされているという
自己存在感を感受できる教育～

子どもたち一人一人は、性格も、特性も、興味・関心も、得意・不得意も、学びのスピードも、好きな学び方もそれぞれ違います。子どもたち一人一人の違いを踏まえ、その違いを認めあいながら一人一人の学ぶ環境を整えていく。自分のペースで、自分の興味・関心に応じて、自ら考え、判断し、行動し、他者と学び合い「納得解」を見つけていく。子どもたちの「やってみたい」をサポートしたい。

そのためには、何でも言える、様々なことに挑戦できる、失敗も認めてもらえる「心理的安全性」のある環境づくりが必要です。

さらには、子どもたちに、異なる背景や特性をもつ他者を理解し尊重し合い、多様な価値観や背景をもつ人々と共に生きる力を身につけていきたいと考えています。

主な取組み

○不登校への対応

- ①フリースクールの機能を採り入れた3つ目の新たな教育支援センターの設置
- ②校内教育支援センターの設置

○外国人児童生徒への対応（NIJ、相談員・支援員、JSLサポーター等）

○子どものSOSを受け止める仕組み、保護者の相談体制の充実



詳しくはこちら

R7磐田市不登校児童生徒支援プラン

つながり・かかわりプラン

不登校への対応

磐田市教育委員会 学校教育課



「つながり・かかわりプラン」

磐田市教育委員会では、「つながり・かかわりプラン」をもとに、困り感をもつ子どもや御家庭に対して、教職員、家庭、地域社会といった市全体が共通認識のもと、連携した取組を進めていきたいと考えています。



不登校への対応



詳しくはこちら



教育支援センターの設置

磐田市では、学校に登校することに困り感をもつ児童生徒が、学校内外で安心して過ごせる居場所を充実させています。

校外教育支援センターは、市内に3カ所あり、個々のニーズに応じて各々の特色を生かした支援を行っています。

校内教育支援センターは、教室に入ることに困難を抱えた児童生徒が自分のペースに合わせ、落ち着いたで過ごせる居場所となるよう、支援を行っています。

特別支援教育の推進



詳しくはこちら

磐田市では、特別な配慮を必要とするすべての子どもたちが、その力を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を乗り越えられるよう、支援体制を整えています。
また「共生・共育」の視点から、磐田市に令和9年度に開校する「磐田特別支援学校」との連携についても考えていきます。

写真：今之浦公園

外国人児童生徒対応



詳しくはこちら

増加している外国人児童生徒に対して、支援員5名、相談員8名及びJSLサポーターを概ね20名配置するとともに、一定期間、生活指導等を集中的に行う外国人児童生徒初期支援教室（N I J I）を設置し、学校での生活や学習への適応を促進していきます。

相談体制の充実

相談体制の充実

いじめや不登校等の児童生徒の悩みや不安に対応するため、面接・電話・メール・GIGA端末利用等による相談ができます。



詳しくはこちら

放課後児童クラブ

放課後児童クラブ

保護者が就労等により昼間家庭にいない市内小学校に就学している児童に、放課後や春・夏・冬休み等の学校休業日に、家庭に代わる生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行うことにより、その児童の健全な育成を図ることを目的に実施しています。令和7年度から民間に委託することでサービスを拡充しました。市内22小学校区で公私立合わせて56クラブを開設しています。



詳しくはこちら

人と人とのつながりを大切にした教育

磐田市では、全国にも誇ることができる「地域のカ」を基盤とし、「人づくり」を進めています。小中一貫教育（平成24年度から段階的に導入し、平成28年度から全校完全実施）、コミュニティ・スクール（平成25年度から段階的に導入し、平成27年度から全校完全実施）はその象徴です。地域の皆様のお力をお借りしながら「地域とのつながり」「子ども同士のつながり」を通して、教育大綱の理念を始め、子どもたちが健やかに安心して学ぶことのできる環境づくりを目指しています。

主な取組み

- 小中一貫教育（学府バス）
- コミュニティ・スクール
- SPO☆CUL IWATA（部活動地域移行）

小中一貫教育



詳しくはこちら

平成28年度から全中学校区で本格導入した小中一貫教育は、小中学校9年間を見通したカリキュラムを編成し、各学府の特色ある教育活動を行っています。

また、8台の学府バス活用による学府内の小中学生や小学生同士の交流、地域の皆様との交流など人と人とのつながりを積極的に行っています。

※学府：中学校区内における小中学校の学校群

コミュニティスクール



詳しくはこちら

コミュニティスクール

「地域とともにある学校づくり」を推進するため、コミュニティ・スクールディレクターやコーディネーターを各校に配置しています。令和5年度は、延べ約7,000人の地域の皆様が各小中学校の教育活動に関わっていただきました。

SPO☆CUL IWATA

SPO☆CUL IWATA（部活動地域展開）

地域の皆様との共創により中学校部活動に代わる地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」を実施し、生徒一人ひとりのニーズに応じた活動を展開していきます。令和8年度から土・日・祝日を、令和13年度までに平日も含めた全ての部活動の移行を目指していきます。令和6年度から地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」を一部先行実施しています。



詳しくはこちら

新時代の新たな学校づくり

小中一貫教育、コミュニティスクールのさらなる推進やより良い教育環境の充実を図るとともに、22世紀に向けて子どもたちの学びの可能性をより広げる新時代の新たな学校づくりに取り組んでいます。

主な取組み
○学府一体校整備


磐田市には10の学府が存在し、それぞれが安定した地域力をもとに特色ある教育を展開しています。

学府一体校整備については、地域の皆様との話し合いを踏まえ、ながふじ学府一体校が令和3年度に開校するとともに新たに令和8年度には向陽学府一体校が開校しました。



詳しくはこちら

学府一体校整備



磐田だから学べることがある
僕は「いわた育ち」になりたい

磐田市は、皆さんの子育てを全力で応援しています

磐田市教育委員会

<https://www.city.iwata.shizuoka.jp/kyoiku/index.html>